主催　公益社団法人 東京都町田市歯科医師会

市民公開講座

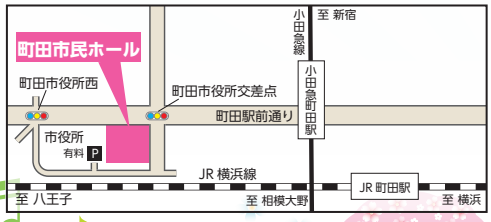
子供の能力の引き出し方を学ぼう
～食べ方と運動の視点から～

参加費 無料
完全予約
定員800名

要約筆記があります。

令和6年 **3月3日(日)**
13:00 ▶ 15:30
（開場 12:30）

町田市民ホール



申込方法　下記二次元コードまたは電話にてお申し込みください。

- 町田市イベント申込システム（通称イベシス）➡
  年中無休 24時間受付
- 町田市イベントダイヤル
  042-724-5656
  年中無休 午前7時から午後7時まで

申込期間　定員になり次第終了

1次受付　Web受付のみ（募集定員 400名）
2024年1月15日正午から1月23日午後7時まで
イベントコード（240124A）で検索してください。

2次受付　Web・電話受付
2024年1月24日正午から2月25日まで
最終受付日　Webは午後11時59分まで　電話は午後7時まで

第1部
頑張らない食べる機能の育て方
昭和大学 歯学部 口腔衛生学 講座 教授
弘中 祥司 先生

第2部
逆転のメソッド～子供の成長のために今できること～
青山学院大学 地球社会共生学部 教授
陸上競技部長距離ブロック 監督
原　晋 監督

共催：町田市　後援：一般社団法人 町田市医師会・一般社団法人 町田市薬剤師会・公益社団法人 東京都柔道整復師会 町田支部

弘中 祥司（ひろなか しょうじ） 先生

上手に食べる事ができない子供が増えています。「ごはん食べるのに何で上手にできないの?」と疑問に思う方も多いと思いますが、実際に私たちの病院には、それを主訴として来院する親子が増加しています。
少子化の現代にとって、子育ては失敗したくないと思う親御さんも多い昨今です。たかが食事で、と嘆く声が今にも聞こえそうに来院されます。
食べることは、スポーツとは異なりますが、実は同じ部分もある事が近年分かってきました。ちょっとした視点の違いから、うまくなる子供さんはとても多いです。今回は、口の専門家の歯科医師から、ちょっとしたコツとそのメカニズムについてお話ししてみたいと思います。きっと美味しく楽しく食べる事ができるようになると思います。

昭和大学 歯学部 口腔衛生学 講座 教授

略 歴
出 身 地:山口県
生年月日:1967年2月27日

職 歴
1994年 北海道大学歯学部卒業
1994-2001年 北海道大学歯学部小児歯科学講座 医員 ～助手
2002-2012 年 昭和大学歯学部口腔衛生学教室 助手～講師 ～准教授
2013年 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔衛生学部門 教授
2013-2023年 昭和大学口腔ケアセンター長（兼務）
2023年 昭和大学 歯学部 口腔衛生学 講座 教授 ※講座 名称 変更

役 職
日本歯科医学会 常任 理事 四役
国際障害者歯科学会（iADH）元 理事長
アジア障害者歯科学会（AADOH）元 理事長
日本障害者歯科学会 前理事長
日本障害者歯科学会 理事
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 理事
日本小児歯科学会 理事
日本老年歯科医学会 理事
国際嚥下学会（WDS）代議員
日本口腔衛生学会 代議員
東京オーラルマネージメント研究会 代表
JOINT4 代表
つばめの会 顧問

著 書
摂食嚥下リハビリテーション 第3版
小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版
小児の摂食･嚥下障害リハビリテーションの実際
スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科
上記を中心に約70冊

原 晋（はら すすむ） 監督

「華々しい経歴のない私がなぜ青学陸上競技部で結果を出せたのか。それはきっと、営業マンとして実績を積み重ねる過程で、チームをつくり上げるにはなにが必要なのか、人を育てるとはどういうことなのかなど、たくさんのことを学んだからです。そして、それをスポーツの現場に持ち込めば成功するのではないかと思ったからです。
「根性だ」「気合いだ」「上の言うことは黙って従い、笑わず、しゃべらず、修行僧のようにただ黙々と走る」という従来の陸上界の常識を打ち破り、ビジネスの現場で培った組織づくり･人材育成のノウハウを活かすことで、常勝チームをつくりあげた経験から、子供のやる気や能力を引き出すための方法や、コミュニケーションの取り方などについてお話します。」
歯科関係の話についてですが、「大会や合宿前に虫歯や親知らずご落ち入ると大変な事になるため、学生には歯の定期検診を推奨しています。」ということを話させていただく予定です。

青山学院大学 地球社会共生学部 教授　陸上競技部長距離ブロック 監督

1967年、広島県三原市出身。世羅高校を経て、中京大学に進学し、全日本インカレ5000mで3位入賞。卒業後、陸上競技部第1期生として中国電力に進むも、故障に悩み、5年目で競技生活から引退。95年、同社でサラリーマンとして再スタートし、電気の検針や料金の集金などの業務につく。その後、営業マンとして新商品を全社で最も売り上げ、ビジネスマンとしての能力を開花。
陸上と無縁の生活を送っていたが、長年低迷していた青山学院大学陸上競技部の監督への就任話が舞い込む。選手として箱根駅伝出場などの華々しい成績や指導経験がなかったものの、2004年に3年契約で監督に就任。
契約3年目箱根駅伝出場を逃し監督辞任のピンチもあったが、強化部1期生の学生と共に強化に励み、翌年の予選会では次点まで成長。そして就任5年目となる09年に33年ぶりの箱根駅伝出場を果たす。
15年、青学史上初となる箱根駅伝総合優勝に輝く。16年、箱根駅伝2連覇、および、39年ぶりに、1区から10区まで一度も首位を譲らない完全優勝という快挙を達成。
そして17年、箱根駅伝3連覇。大学3大駅伝である出雲駅伝、全日本大学駅伝、箱根駅伝の優勝により、大学駅伝3冠という快挙も同時に成し遂げる。3連覇3冠の同時達成は史上初。
18年、箱根駅伝4連覇。19年の箱根駅伝は、出雲駅伝と全日本大学駅伝で優勝し、箱根駅伝5連覇と史上初の2回目の3冠を目指すが、惜しくも総合2位（復路優勝）。20年は大会新記録で5度目の総合優勝。21年、往路12位から巻き返し復路優勝（総合4位）。22年には、20年大会で青学大がマークした大会新記録をさらに更新し、2年ぶり6度目の箱根駅伝総合優勝に返り咲いた。23年は大会直前でチームにアクシデントもあったが、総合力を発揮し総合3位。
ビジネスの経験を生かした「チームづくり」「選手の育成」で陸上界の常識を破り、快進撃を続ける。2019年4月からは地球社会共生学部教授として教壇にも立っている。
主な著書に、『「挫折」というチカラ　人は折れたら折れただけ強くなる』（マガジンハウス刊）などがある。